



西南ゆりの会の活動へご参加下さい

西南ゆりの会会長 渋田 壽子
(経済65期)

6 号	西南学院大学女子同窓会 (西南ゆりの会) 機関誌
	1998年11月5日発行 発行人 渋田 壽子 福岡市早良区西新6-2-92 西南学院大学同窓会内

関係各位の御努力により、この機関誌「白ゆり」の発行も第6号を数えることができるようになりました。

また、西南ゆりの会(西南学院大学女子同窓会)の存在を知ってもらい、一人でも多くの卒業生が活動に参加していただけることを願って、発行部数も第5号から三千部に拡大しております。

現在、西南大の在学生六、九六六人に占める女子学生の割合は52%(一年生では57%)に達し、女子の数が男子を上回っております。西南ゆりの会も現役学生に負けず頑張りたいたいと思えますが、その活動と課題をお知らせします。

昨年度は、「西南ゆりの会の存在を広くPRすること」を最重要課題に掲げ、大型イベントを企画しました。第十二回(秋のつどい)に、狂言師野村萬齋氏を迎え、勤め帰りの方にも気軽に参加していただけるようにと、天神にある(アクロス福岡)のシンフォニーホールを会場に選び、開演時間も午後六時としました。当日は千八百席のホールがほぼ満席となる盛況で、ここに改めてお礼を申し上げます。

ミニサロンは、福岡中部教会をお借りして、十二月二十五日に青野太潮神楽部長並びに、西南ブリエール指揮者

野口儀さん(仏専七七期)をお迎えし、素敵なクリスマス会となりました。

今年度も、機関誌の発行、秋のつどい、ミニサロン(七月十七日開催)と、例年通り行いますが、役員月例会(昨年度までは原則として昼間)を一月交替で昼と夜にしたり、同窓会の職域支部や地域支部に女性の世話人を決めていただく等、「西南ゆりの会の活動の輪を拡げること」を重点課題としております。

西南ゆりの会の発展にご協力いただきそうなのは、最後のページの連絡先までご一報下さい。お待ちしております。



キャンパスの松は今も青春の色に薫っている

第13回「秋のつどい」のご案内

「西南ゆりの会」恒例の(秋のつどい)も、本年度で十三回目を迎えます。母校教授による公開講座、時の人を迎えての講演会、パイオルガンコンサート等、いろいろ試みてまいりましたが、それなりに喜んでいただけただけではないでしょうか。今回は少し趣向を変えて、弦楽四重奏の集いを聞くことにいたしました。澄みわたる弦の調べに耳を傾けながら、ゆく秋とともに惜しみませんか?

記

「弦楽四重奏を聞く会」

日時 平成十年十一月二十八日(土) 午後三時~五時三十分

会場 福岡中部教会

福岡市中央区大名二丁目一三六番〇九二七三二一七三三

(貫禄大名二丁目バス停下車西へ二分)

会費 二、〇〇〇円(懇親会費を含む)

出演者

第一ヴァイオリン

高橋 由美(桐朋音大器楽科卒)

第二ヴァイオリン

佐々木悠紀子(愛知県立芸大器楽科卒)

ヴィオラ

中村はるみ(国立音大器楽科卒)

チェロ

伊藤 晶子(島根大特音科卒)

曲目

ハイドン「皇帝」

チャイコフスキー「ワルツ」

バッハ「アリアとガボット」

レスピーギ「イタリアーナ」

「シリアーナ」他

懇親会ではハイテキーを用意しております。恩師、旧友との語らいの中でゆっくりお過ごしください。

学部は今!

文学部 外国語学科 フランス語専攻

フランス語専攻の開設

文学部外国語学科仏専は、一九六五年に開設されました。来春、三〇回目の卒業生を世に送り出すことになりました。

開設当時、助教授であられた中村先生は、一九六九年から、各種主任などの要職を歴任され、現在は大学院学務部長でいらつしやいます。つまり、西南の仏専を出た者はすべて中村先生の教えを受けているわけです。開設当時から、各学年に一クラス五〇名のみ少数精鋭。そこに教授六名、助教授三名(うちフランス人一名) 講師一名(フランス人)の恵まれた環境です。

フランス語を「生きたことば」として学ぶ

フランス語を「生きたことば」として学ぶために、仏専では一年次から

「聞き」「話す」を徹底訓練

桑野綾子
(仏専75期)

今回の学部紹介は、私が卒業した仏専です。久しぶりに、懐かしい我が学舎を訪れました。恩師の中村栄子教授が、昔と変わらぬ笑顔で迎えて下さいました。

活躍する卒業生

現在、仏専の教授であられる武末(たけまつ)祐子先生は、初めての西南



武末先生(左)を囲んで演習の授業

はえぬきの教授です。教授は一九七七年大学卒業、一九七九年修士課程卒業の後にグルノーブル大学の大学院に進まれ、同大学で博士号を取得されて、一九八八年に西南学院大学の講師とされました。専門はフロベール(マダム・ボヴァリー)。結婚して、八歳の女の子が、学生と間違えられそうな若々しさです。

武末先生と同期の藤島美哉さんは、福岡市職員にして、フランス語の公式通訳。ポルドー市との公式行事の時など、いつも大活躍なさっています。

七九期の小柳由紀子さんは、結婚後にバリのルーブル美術館で四年間、フランス美術史を学ばれ、今春帰国、現在九州芸術工科大学大学院で学ぶ傍ら、日仏学館でフランス美術史を教えられています。

その他にも教えあげたらきりがないほどに、たくさん卒業生が、フランス系の銀行、航空会社、そして日本の商社、新聞社などで活躍しています。

現在、フランス語専攻は、八割以上が女性。前記三人を含めてその卒業生のほとんどが、結婚してもなお仕事を続け、活躍しているのは、教えを受けた中村栄子教授が、そうなさってこられたからでしょう。

輝かしい卒業生を世に送りだし、優秀な後輩を得て、我が学舎はこれからもますます栄えていくこと信じます。

六月二十日(土)

遂に西南ゆりの会十周年記念行事の西南のルーツを訪ねる旅の出発の日！六時に山崎さんが迎えに来てくれ、空港には渋田会長、内海副会長もお見えになりバンザイに見送られ、田中学長の親書を携えて、ゆりの会のメンバー一人一人に言い尽くせない感謝の念を持ち、機上の人となりました。

ゆりの会創立10周年記念

C・K・ドージャー先生 ゆかりの地を訪ねて

加の折、ある奥様からたつた四人で来たことにとても勇気があると言われた時には込み上げてくるものがありました。

例えば、出発に至るまで種々な紆余曲折がありました。まず一昨年八月の委員会での企画提案、可決され、出発を九七年六月十九日に決めました。旅行委員に山崎さん、野副さん、私が

決まり早速行動開始。田中学長をお訪ねし、アドバイスをいただきました。C・K・ドージャー先生が洗礼を受けられた第一バプテスト協会の日曜礼拝参加、母校であるマーサー大学訪問を薦めてくださり、それに永年の念願であるゆりの会恩人の河野さんの表敬訪問、この三つの公式行事を軸にスケジュールを練り、数社に見積もりを依頼、滑り込みセーフで白ゆり4号に募集記事掲載。しかし意気込みとは裏腹に問い合わせはほとんど無し。そして去年、五月の委員会、記念行事の開催準備の多忙さと重なり思い切つて一年延期決定。白ゆり5号で再募集、最終的には今年四月五百人近くの同窓生に呼びかけの手紙を出しましたが返事は皆無。五月の委員会では断念せざるを得ない状況でしたが、記念事業を実施したい思いは絶ちがたく、前からゼミのお友達との参加を決めていた。だいたい安西さんの後押しもあり四人でも行こう！になり、一件落着、喜びも

初公式行事、ゲインズビルの日曜礼拝参のを経てのテイクオフとなったのです。コンセプトのある六泊八日の旅、距離にて約三万キロ。強行スケジュールだと言われましたが嬉しさが先行しているので皆、元気元氣！八十数年前ドージャー先生が一ヶ月の船旅で来日された事を思い、時の隔たりを感じました。最初の公式日程である教会でのサウンデースクール、礼拝参加は思つていた通り、感動しました。ドージャー先

生がリターンした思いでいっばいで、私達を暖かく迎えていただきました。以後、私達は感謝の旅を続ける事ができ、かかえ切れないほどの思い出を胸に無事帰国しました。改めて同行の先輩方そして、この旅行を支えて下さった全ての皆さんに重ねてお礼申し上げます。ほんとうにありがとうございました。



第一バプテスト教会

最後に帰り際の合言葉『いつかりターンしましょう』この夢を胸に家路に着きました。次回は皆さんも是非一緒にしましょう。(高山和代・児教68期)

六月二十一日(日) 教会
主目的の一つ、ドージャー先生が洗礼を受けられた第一バプテスト教会を訪問。それはアトラクタより少し北のゲインズビルにあり、小さな町の森の中の教会なのに、その大きさと立派さに驚かされた。実はクリスチャンでもないのに、礼拝に出ることに少し気持ちの後れがあったが、案内係のキャシーさん御夫妻、出席者の柔らかい笑顔に接し、少し緊張がほぐれた。ドージャー先生の子孫の方、シート西南学院院長の同級生という方にもお目にか

かることができた。たくさんの部屋に分かれての日曜学校の後、何処からこれだけの

かとても意義深いものがあつた。礼拝後は、キャシーさん宅で御馳走になり、その御家族と父の日の過ごし方、三女の方の婚約者もいらつしやつ



マーサー大学校舎

ていたので、アメリカと日本の結婚式の違いなど、初めての南部形式の家でくつろいで過ごせた一時だった。

(安西 忍・英文64期)

六月二十二日(月)マーサー大学

ドージャー先生が学ばれたマーサー大学は、二年前のオリンピックの喚声が聴けて、アトラクタより南の方に位置していた。千八百年代にマーサーにより設立され、学生数は西南の半分位なのに、キャンパスは西南の何倍あるか、公の道路が通っている程で、医学部もある総合大学だそう。

主玄関は木の階段、木の廊下、歩くときしむ音が歴史の重さを感じさせるようだった。一番古い建物は創立後十年後に建ったことだが、新しいのも古いのと同じ色と様式で建てられて



メトロポリタン美術館

二ユーヨークあれこれ
いよいよあらゆる面で世界の中心であるニューヨークに。二日間のフリータイムだがもりだくさんの計画となつた。主なものを列記してみる。
一日目はメトロポリタン美術館に。限られた時間なので、各々自由行動。私は十九世紀ヨーロッパ絵画を、全て本物(当然のことである)ということに圧倒されながら、じつくりと、急いで鑑賞となつた。セントラルパーク

の遊歩、五番街での「LOOKING」ブロードウェイではミュージカルも楽しんだ。エンパイヤステイの素晴らしい夜景は想像以上の素晴らしさだった。あかりは、室内や街を明るくして生活しやすくするたればかりでなく、夜景として眺めるためにもあるのだと実感した。
二日目は、デイナークルーズで「自由の女神」を見に行くというもの。次第に暮れなすむ中、船上から眺めるマンハッタンの様子(それは刻一刻と暮れていき、やがて光と影を持つビル集合体と化す)は、夢のような景色だった。
旅慣れた諸姉のおかげで、自分の足を使っての観光だった。二ユーヨークという大都会は、たつた二日間の滞在者をも温かく受け入れて、妙に懐かしい想い出をつくってくれた。機会を与えて下さった皆さんに感謝します。
(秋根由美子・英文64期)

六月二十五日(木)河野氏訪問
真青な空のサンフランシスコ空港に着くと、すぐ、最後の目的(河野氏訪問)へと車でサンノゼへ向かいました。半導体で有名なシリコンバレーを通りすぎ、一時間程で河野さんの住居へ到着しました。日系人ばかりの集合住宅で、日本瓦の屋根がついた門には「藤」と名前がありました。連絡がっていたので、河野さんが八十九歳とは思えないしっかりした足取りで迎えて下さいました。
玄関、ホール、公の室以外は個室で、一LKで簡単な料理ができるようです。アメリカで成功されたお子さま達との写真、大学からの感謝状、千代紙で折った鶴や絵に囲まれ、幸せな毎日過ごしていらつしやるのがよく判りました。
我々が訪問したことをとても喜んで下さり、河野氏の友人(西村さん)もお仲間に入って、福岡での写真を見たり楽しい時間を過ごしました。また、もう一度西南へ見るとのお約束を得て、サンノゼを後にしました。
西南の同窓会でしか行けないすばらしい第一バプテスト教会、マーサー大学と貴重な体験をすることができ、嬉しくありがたく思っています。当旅行を立案、お世話下さった方々に心よりお礼申しあげます。
(新森敏子・英文64期)



河野さん、西村さんを囲んで

西南ゆりの会は、毎年の「秋のつどい」をメインに、運営とアピールに役員一同努力を重ねてまいりました。昨年は、女子同窓生（在学生も含み）二万人突破を記念して、ビッグな「秋のつどい」を企画したものの、どなたにも魅力ある、ゆりの会にふさわしい「時の人」は？と予算と見比べながらの思案。幸運なことに今を時めく野村萬齋氏の講演会決定の運びとなりました。

12回秋のつどいに野村萬齋さん来たる!!

何しろ資金のない団体なので、運営費捻出に広告係が頑張りました。チケット販売は役員にどさつと課せられ、いよいよ目標にまつしぐら。

九月も目の前に迫るころ、予想以上にチケットが売れて予定会場のアクロス・イベントホールの客席数九百を越えてしまったので慌てました。千八百席のシンフォニーホールが奇しくも空いており、急遽、会場変更、これぞ天佑！チケット販売も更に頑張りました。



ジャンパー姿で会場整理にあたる

た。こうしてテレビ朝ドラのヒーローは会場を満席にしてくれたのです。本番では役員の他、同窓生のボランティアや学生も加わり、赤、黄、緑のレンタルジャンパーを着てプラカードを持ち、案内・もぎり・場内誘導など五レンジャーも顔負けと思わせるほど年を忘れて大いに若やぎました。

萬齋氏は端正な容姿で狂言の仕ぐさや、朗々とした謡の声をホールに響かせ、会衆を魅了しました。終了後、萬齋氏が掛けた黒い椅子がステージに名残をとどめていましたが、去りがたいようすの女子高校生達が、なんと、交互にステージに上り、その椅子に掛けては歓声をあげるではありませんか。その微笑ましい姿に若さを羨み、共感を覚えたことでした。かくも若い層に

「時の人」でした。こうして、古典芸能の粋を味わっていただいた会場の皆様やボランティアのご協力に感謝申し上げます。西南ゆりの会の未来に希望と発展が見えた「第十二回・秋のつどい」でした。

（宮崎朝子・児教49期）

サラマッポ通信

西南ゆりの会では、サラマッポ会を通じて、フィリピンの女子大学生の学費支援を行っています。

サラマッポ（現地の言葉でありがとうの意味）会というのは、才能と意欲を持ちながらも経済的な理由で教育を受けられないフィリピンの学生達を支援する目的で、十六年前、日本で設立された民間団体です。当ゆりの会が四年間支援してきた、ジーン・ヴァルデスコさんがこのほどめでたく卒業し、本人からの



お礼状とサラマッポ会からの正式な卒業感謝状（写真）がとどきました。皆さんのご協力に感謝します。なお、ゆりの会が次に受け持つ女子学生はニムファ・ヴェセスラオ（NIMFA VESSESLAO）さんでアダムソン大学のコンピュータ科生です。ヴェセスラオさんは五人きょうだいの末っ子。お父さんは運転手、お父さんの収入が十分でないため進学できないところだったが、幸いサラマッポ会からの奨学金が貰えることになり、将来、コンピュータエンジニアとなる夢が叶えられることになって、大変嬉しい……等々と、お礼状に書かれています。奨学生に対する手紙や贈り物は直接当人にしてはならないことになっていますが、もし、励ましのお手紙等を送りたいかたは左記の事務局までお送り下さい。そこから本人に届けられることになっています。

（事務局）東京都港区高輪四一七一
カトリック高輪教会内
郵便番号一〇八〇〇七四

『セックスウオッチング』

新刊紹介

デズモンド・モリス著／羽田節子訳
書名は刺激的ですが、内容はきわめて真面目に男と女の性差を追求したものです。人間の男と女が生物学的にどのようなものであるかを明かにした上で、性差別がどのように形成されていったかを述べ、最終的に一方の性が他方の性を真似ることによる平等社会（たとえば我が国の現代社会の男女平等）ではなく、あくまでも互いに差異を認めた上で、それを補い合つて強調するような平等社会を提言しています。（小学館・三、八〇〇円）

ひ ろ ば

葉玉 哲子 (英文61期)
 女子同窓生二万人突破を本当にうれしく思います。女性の時代をこのことにおいても実感させられます。母校の発展・成長をゆりの会の皆様と共に、更に努力していかなくてはという熱い気持ちがいっぱいになりました。

北 征子 (児教65期)

白ゆりの会報を送って頂きまして、真にありがとうございます。ドージャー先生のゆかりの地を訪ねての旅、すてきななあゝと思います。しかし、小学生を持つ母親としては今少し子ども成長する時を待ちたいと存じます。親友とここ二、三年は学園祭等西南の思いでの場におかがいさせて頂き、なつかしい学生時代のお話や恩師の方々に会いでき、楽しい一刻を過ごさせて頂くことに大へん感謝しております。

村田 三恵子 (商63期)

女子同窓生二万人突破、おめでとございます。私達63期商学部は男性六〇〇名、女性三名という淋しさでしたので、活躍の場などない状態でした。今、輝いている女子学生の顔が、声が素晴らしいと羨ましく存じます。今後はりきってゆりの会に参加させて頂きたいと存じます。

野中 千賀代 (商66期)

毎回、素敵な催しで楽しみにしております。加藤タキさんの講演では、良い言葉を教

えて頂き、友人達との教育談にはよく使わせて頂いております。その言葉は「子供の前にレールを敷いてはいけません」という加藤さんのお母さんの言葉です。私共の子供達も成人を迎えましたが、この言葉にはあらためて頷けるものがありました。これからも、いろんな企画をお願い致します。

獄村 久美子 (児教70期)

私達の同級生は各方面で活躍中です。YMCAの子育てサークル、幼・保の現場で園長、主任として。尼崎の平田さんは園長として、地域の子育てセンターとしての保育園づくりをしておられます。絵本や著書も二冊あります。震災の中でもがんばっておられます。皆、学生の時の考えを貴重に思っております。保育の制度が大中に改善されようとしている今、署名運動などに今から取り組みます。

光山 千ヨ子 (商76期)

毎回「白ゆり」を楽しみにしております。加藤タキさんの講演と今度と二度出席します。二度とも、主人の母を誘って二人で楽しませていただいております。母も「あなたのおかげ」と喜んでおります。ゆりの会の発展を祈っております。

木田 和子 (商77期)

ゆりの会の会長さんのお話にありますように「福岡の女性が元気で輝いている」とよく言われます。福岡に在住している一人の女性として、とても嬉しい限りです。私も元気を出して、毎日を生き生きと過ごしたいと思っております。

岡本 紀代美 (国際文化91期)

大学卒業以来、福岡を離れていましたが、今年、会社を退職して戻ってくるまで、この

会の存在を知りませんでした。時がたつのは早いもので、私の後輩たちも徐々に増えてきているんだと驚いています。今年は福岡での生活を充実させたいと思います。

山田 啓子 (児教85期)

早いもので卒業して十三年、まだまだ独身で頑張っています。学生時代、体育会だったせいかいまだに体を動かすことに夢中になっています。やはり汗をかくというこはいいですね。その分、汗量が増えるのが悩みのタネですが。

河原 恵美子 (英文66期)

ある時は元気づけ、又ある時は学生時代にタイム・スリップさせてくれるステキな「白ゆり」をありがとうございます。チョットしたきっかけで中国からの若い留学生夫婦とお友達になり、お互いに異文化交流を始めて半年になります。中国と日本の小さなかけ橋ともてらうのに役立てればと大きな夢を持つようになりました。

坂本 薫 (英文79期)

今回初めて「白ゆり」が手もとに届き感です。最近、西南キャンパスを歩き、二十年前と全く街の雰囲気変わったのに驚き、その中に変わらない場所を見つけては胸が熱くなり、その歳月を改めて痛感した次第です。次号からも楽しみにしております。

高橋 直子 (英文83期)

『国際交流の理論』(頭草書房)を出版いたしました。西南大学広報紙にて紹介をしていただきました。この八月末には第二刷を出します。福岡はまさに国際交流が目玉の都市、でも本当に交流とは何なのか、改めて考えてみると、その答となる本がありませんでした。人と人との交わり、親子、恋人、夫婦、

先生と生徒、社長と社員、店とお客、人と自然etc. 私達の周囲にはいろいろな関わり方が存在します。交流とは何なのかを明らかにすることで、その関係が大変スムーズに流れます。そして、更に高めた協力を押し進めることが私達の生き方を改善していくのです。私自身、この本を書き上げて運まきながら結婚することになりました。

岩尾 豊子 (英文70期)

「白ゆり」ひろばのページで、友人の名前を見つけた懐かしかったです。皆様のご活躍をお祈りいたします。

徳丸 理絵 (商93期)

昨年の加藤タキさんの講演会にも出席させて頂き、それ以来、タキさんを雑誌でみかける度、より身近に感じられるようになりました。今回「あくり」の大ファンなので、野村萬斎氏の来福、大変嬉しいです。

熊谷 満寿美 (児教90期)

先日、西新に用事があり、ちよつと西南学院の前を車で通りましたが、食堂がとても立派になっていました。いつも、学食でたむろしていたあの頃、なんだかちよつと淋しい気がしました。

荒川 たず子 (英専73期)

この度、初めてこの女子同窓会の存在を知りました。先日、約二十五年ぶりに、福岡在住者のクラス会がありまして出席しました。学生時代の事が本当に懐かしく思い出されて。そこでお会いした女子の方は皆英語関係の仕事につかれています。それ以上に人間的に本当にいい人ばかりで、ほのぼのとした気持ちでした。私も西南大学英専という肩書で、胸を張って英語の塾をしています。又、その名をはずかしめることのないよう、更に勉学にも励んでいます。

平成9年度収支報告

(平成9年4月1日～10年3月31日)

1. 収入の部

項目	収入額	備考
同窓会補助金	400,000円	大学同窓会よりの補助金
ミニ講座費	58,000	クリスマスの集い 会費2,000×29名
雑収入	117	普通預金利息
繰越金	4,596	平成8年度繰越
収入の部合計	462,713	

2. 支出の部

項目	支出額	備考
ミニ講座費	122,535円	クリスマスの集い 講師謝礼、料理、会場費等
慶弔及び渉外費	55,100	他大学総会出席会費、 ご香典、祝花、祝金その他
通信費	108,240	100,000円は「白ゆり」発送費の 一部負担金
印刷費	100,000	「白ゆり」印刷費一部負担金
会議費及び事務所費	34,000	役員会会場費、事務所費
雑費	6,714	印鑑作成費等
繰越金	36,124	
支出の部合計	462,713	

平成9年度事業報告

(平成9年4月1日～10年3月31日)

- ☆西南学院大学同窓会総会(平成9年6月13日・金)
積極的に参加
- ☆西南ゆりの会総会(平成9年6月13日・金)
西南学院大学同窓会総会に合わせて行なう
- ☆第12回秋のつどい(平成9年9月30日・火)
 - ・講師 野村萬斎氏(和泉流狂言師)
 - ・演題「狂言の醍醐味—国際交流は自国文化の理解から—」
 - ・会場 アクロス福岡シンフォニーホール
- ☆第21回ミニサロン(平成9年12月25日・木)
青野太潮先生(西南学院大学神学部部长)を迎えて、クリスマスのお話と祝会
会場 福岡中部教会
- ☆西南ゆりの会広報紙「白ゆり」第5号発行
- ☆サラマッポの会援助(フィリピンの子学生に奨学金)
- ☆役員会 月に一回

掲示板

■名簿係からのお知らせ

ゆりの会活動も十三年目に入り、初回から記録しておりまず出席者名簿も千名を越え、秋の集いに毎年かかさず御出席いただく方も増えてまいりました。昨年女子同窓生二万人突破を契機に、より広く活動を知っていただくため一挙に三千名の方に会報を発送させていただきました。だが、予算の関係上なお全員の方には行き届かない状態です。そのため、まだ秋の集いに御出席いただけていない方の中には「白ゆり」を初めて手にされた方、一度しか送付されなかった方もいらつしやる事と思います。発行部数の足りない事をご理解の上、引き続き送付ご希望の方はぜひ下記連絡先までお申込み下さい。なお住所変更など、その都度お知らせいただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。(嘉村)

■西南学院大学五十周年記念事業

西南学院大学は、一九四九年に開学され、来年は五十年目になります。そこで、実行委員会を設け、記念事業の企画を進めています。卒業生の皆様のご提案と多数のご参加をお待ちしています。

■記念事業のご案内

- 一九九九年十一月十三日
- 13：00 記念講演会(テーマ：講師・会場未定)
- 16：30～17：30 記念式典(シーホークホテル&リゾート)
- 18：00～20：00 祝賀会(会員制立食バーテイ※その他、記念誌(アルパム)の発行、教職員、卒業生、学生参加の自主事業(音楽会、美術展、バザーの実施など皆様の企画をお待ちしています)

問い合わせ先
千八四一八五一
福岡市早良区西新六二一九十二
西南学院大学庶務課気付
開学記念事業実行委員会
TEL 〇九二一八四一—一三二—

■西南プリエールより

福岡YWCAは十一月三日創立五十周年記念式典を中部教会で行います。西南プリエール(女子卒業生有志のコーラスグループ)はそのプログラムの中に賛助出演し「懐かしのアメリカ民謡」を歌うことになっています。新しい団員の参加をお待ちしています。みんな同窓生で和気あいあい楽しんでですよ。問い合わせはYWCA事務局へ。
TEL 〇九二一七四一—一九二五—

■サラマッポ会の西本神父と懇談

十月二十七日、サラマッポ会のフィリピン側総括責任者西本至神父とシスター・チタが来福されました。ゆりの会では渡田会長以下数名がお二人と懇談の一ときを持ちました。なお、サラマッポ会では古切手や古テレカを集めて活動資金の一部にしているとのこと、協力できる方は6ページ記載の事務局宛にお送りください。

■編集後記

○「白ゆり」の発行も回を重ねることに誌面も充実し、なかみのこいものとなつていていると思います。この機関誌を通して、青春のある日にもどつて、またあらたなエネルギーを感じていただけたら幸いです。(河内)

○大学も開学五十周年を迎えますが、同窓会の物心両面の支援が大学発展の要の一つだと思ひます。

○大学同窓会賛助金にもご協力お願いします。(宮崎)

○いつもの事ながら原稿の締切り日に間に合わずご迷惑をかけたました。ごめんなさい。にも拘らず先輩方のご尽力でいつもの様に素晴らしい「白ゆり」で感激です！(高山)

連絡先 梓書院(田村)
福岡市博多区上呉服町五—三〇
TEL 〇九二—二七—五二八八
FAX 〇九二—二七—五二六八